



自分の命は自分で守る～池田小事件を風化させないために～



先日、本校では「不審者対応避難訓練」を実施しました。いつ、どこから現れるかわからない脅威に対し、子供たちは緊張感をもって訓練に臨むことができました。

語り継ぐべき教訓：附属池田小事件から20余年

今から24年前の平成13年6月8日。大阪教育大学附属池田小学校に、刃物を持った男が侵入し、罪のない8名の子供の尊い命が奪われ、多くの児童と教職員が傷つきました。

この事件は、日本の学校安全のあり方を根底から変えました。今の子供たちが、「校門が閉まっている」「防犯カメラが常時作動している」「知らない人がいたら先生に報告する」といった当たり前の安全対策の中にあるのは、この事件の犠牲を決して無駄にしないという大人たちの強い決意があるからです。



命を守るための「3つの力」

避難訓練の際、「自分の命は自分で守る」ために、子供たちへ以下の3点を伝えました。ご家庭でもぜひ話題にしてみてください。

1. 「おかしい」と感じる直感の力

不審者は必ずしも「怖い顔」をしていません。大事なのは見た目ではなく、その人の「動き」を見ることです。「じっと見ている」「理由なく学校の周りをうろうろしている」など、何かおかしいと感じたら、それは心の「命のブザー」が鳴っている証拠です。その直感を信じ、すぐにその場を離れる勇気が大切です。

2. 「距離」という最大の武器

不審者から身を守る最大の防御は「近づかないこと」です。相手の手が届かない距離を常に保つこと。もし異変を感じたら、先生の指示を待つまでもなく、まず「距離をとる」こと。逃げることは決して恥ずかしいことではなく、命を守るための最も正しい判断です。

3. 「助けを呼ぶ」声の力

「いざ」という時、人は恐怖で声が出なくなることがあります。だからこそ訓練が必要です。もし捕まりそうになったら、「助けて!」と叫ぶことは、周りの大人に「ここに危険がある」と知らせる大切な合図になります。皆さんの声は、自分と仲間を守るための強力な武器になります。

【保護者の皆様へのお願い】

学校では「さすまた」の配備や防犯カメラの設置、教職員の訓練を重ねていますが、物理的な対策だけでは限界があります。登下校中や公園で遊んでいる際など、「一人になる時間」をできるだけ減らすこと。そして、お子様が「何か変な人がいた」と話してくれた時は、些細なことでもしっかりと耳を傾け、学校や警察へ共有をお願いいたします。

池田小学校の事件で亡くなった子供たちも、今の皆さんと同じように、明るい未来を夢見て学校に通っていました。その未来を守り抜くために、私たちは「もしも」を想定し続けなければなりません。「自分の命を自分で守れる子」を育てるため、今後もご家庭・地域と連携しながら、安全な学校づくりに邁進してまいります。

